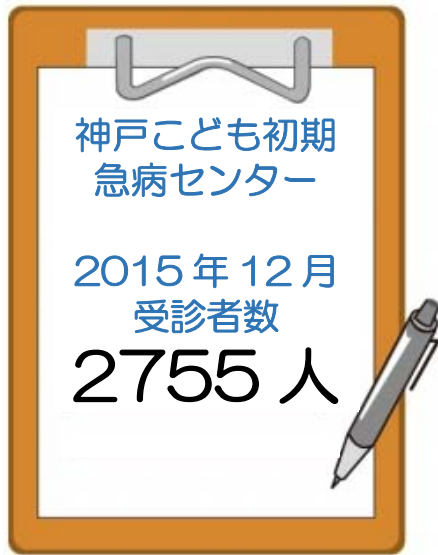


Emergency Watch

No.61 Jan. 2016



【疾患頻度】

1. 急性上気道炎・咽頭炎	: 857人
2. 感染性胃腸炎	: 624人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎	: 178人
4. 気管支炎	: 143人
5. 感冒	: 86人



年末年始は体調を崩さず健やかに過ごされましたか？今年もどうぞよろしくお願いいたします。
神戸こども初期急病センターの12月の総受診者は2755人でした。先月に引き続いて感染性胃腸炎が多く発生しています。そこで今回は、感染性胃腸炎についてのお話をします。

Q1：感染性胃腸炎の原因は？

原因は、細菌性とウイルス性の2つに大きく分けられます。細菌性としてはO157に代表されるような病原性大腸菌、サルモネラ菌などがあります。こども初期急病センターを受診される患者さんのほとんどはウイルス性で、ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスが有名ですが、原因ウイルスが特定できない場合も少なくありません。感染経路は、経口感染がほとんどで、患者さんの便や嘔吐物から感染する場合と、汚染された食品により感染する場合があります。例えば、ノロウイルスでは、生あるいは不十分な加熱調理の二枚貝を食べて感染することがあり、潜伏期間は24～48時間とされています。

Q2：どんな症状がでますか？

主な症状は嘔吐と下痢ですが、発熱や腹痛をともなうこともあります。嘔吐のピークは半日以内のことがほとんどですが、下痢は数日～1週間以上続くことがあります。嘔吐が半日をこえて続く場合には、経口水分摂取が困難となり、脱水症状に注意が必要です。

Q3：治療法は？

現時点では、ノロウイルスなどのウイルス性胃腸炎に有効な抗ウイルス薬はないので、自分の力でウイルスを排除するのを待つことが基本となります。ただし、嘔気がひどい場合、脱水症状が出現した場合には、制吐剤や点滴治療による水分補給などの対症療法が有効なことがあります。嘔吐がおさまれば経口補水液などによる水分補給が重要です。ただし、嘔吐がおさまった直後に無理に水分をとると再び吐いてしまいやすいので、嘔吐がおさまり少し落ち着いてから、少量ずつの水分摂取を行いましょう。

Q4：どうすれば予防できますか？

最も大切なのは手洗いです。調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。ノロウイルスに代表されるウイルス性胃腸炎では、感染力が強いので家族内で感染してしまうことも珍しくありません。家族内で感染者がいる場合には、便や嘔吐物の取扱い時には手袋をするなどの工夫が必要です。また、保育園や学校などでは集団感染がおこることがあります。不運にも、お子さんが感染してしまった場合、嘔吐・下痢がおさまれば体力が回復するまでは無理な通園・通学を控えましよう。

